

小森「リスロンG40Pアドバンス」導入

今野印刷（仙台市）

東北エリア1号機

LED-UV水なし印刷で体制強化

今野印刷（橋浦隆一社長、仙台市若林区）は今年1月、小森コーポレーション（持田副社長）の菊全判反転機構付オフセット枚葉印刷機「リスロ

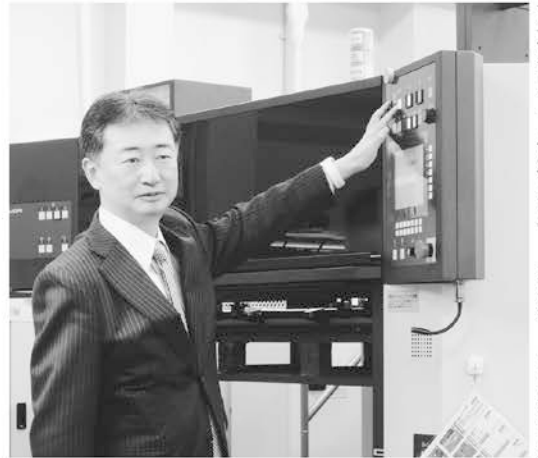
ンG40Pアドバンス（G導入した。2月17日にはL・440P・A）を本社工場で修祓式が執り東北エリア1号機として行われ、本格稼働へ安全

を祈願した。今野印刷は長年にわたる水なし印刷を実践しており、2009年に一般社団法人日本WPA（日本水なし印刷協会）に加入、カーボンオフセット

にも取り組むなど、環境対応を積極的に進めている。同社が発行しているタウン誌「仙台っこ」はFSC認証紙十カーボンオフセット水なし印刷で作っており、製造過程で排出された1部当たりのCO₂39.5gは日本WPA

を祈願して修祓式は予測している。今野印刷が導入したリスロンG40Pアドバンスは、最高印刷速度1万5000回転。ワンパスで高品位な両面印刷とストリートストップは日報形式でオペレータが入力し

実現する。LED・UVランプは2灯搭載している。インライン品質検査装置、自動見当装置も採用しており、最新の自動分析が可能になる。システムでスキルレス化を実現する。橋浦社長は人手不足が深刻化するなか、「一般的に機械に育成するまで5年ほどかかると言われるが、スキルレスで人材育成に費やす時間が短縮される」と自動化の効果



橋浦社長がスタートボタンを押し始動

環境対応と高生産性で競争力向上



安全を祈願して修祓式

水管理や乾燥に起因する事故などを省くことで「社員を楽にさせる」と、働き方改革にもつながっていく思いを述べた。今回の導入は、KOMORIの菊全判8色機からの入替えであり、機種選定は小ロット化への対応を目的としている。「印刷需要全体が小ロット化しており、小回りの利く印刷機の方が現状に即していると考えた。新台は高速回転でも非常に安定している。昨年稼働を開始したA全判のLED・UV印刷機とリスロンG40Pアドバンスの連携により8色機で行っていた需要を取り込むことができた」と橋浦社長



導入したリスロンG40Pアドバンス

Aを通じて国内クレジットを利用してオフセット（相殺）される。冊子にはバタフライCO₂ロゴを表示している。リスロンG40Pアドバンスも水なし印刷仕様であり、LED・UVと水なし印刷を組み合わせた先進的な取り組みとなる。今回の導入により、既設のLED・UV水なし印刷機と合わせパウダーレスを実現、より作業効率が高まった完全水なし印刷工場となった。

修祓式後、橋浦社長ならびに河内和史取締役生

産事業部長より導入の経緯やLED・UV水なし印刷について説明が行われた。橋浦社長は「水なしは環境対応という理解になると思われるが、われわれは生産性の高さにも着目している。生産性が高いとは短時間で良い製品をつくること。これはオペレータの負担軽減となり、職場環境の改善にも結びつく。環境面と生産性の改善を追い求めるべく、LED・UV水なし印刷体制に踏み切った」と

「印刷需要全体が小ロット化しており、小回りの利く印刷機の方が現状に即していると考えた。新台は高速回転でも非常に安定している。昨年稼働を開始したA全判のLED・UV印刷機とリスロンG40Pアドバンスの連携により8色機で行っていた需要を取り込むことができた」と橋浦社長

橋浦社長は「水なしは環境対応という理解になると思われるが、われわれは生産性の高さにも着目している。生産性が高いとは短時間で良い製品をつくること。これはオペレータの負担軽減となり、職場環境の改善にも結びつく。環境面と生産性の改善を追い求めるべく、LED・UV水なし印刷体制に踏み切った」と